

佳作

無限のエネルギー

秋田県潟上市立天王南中学校

1年 松澤 冬佳

私は今まで、体育以外でほとんどスポーツをしたことがなかった。中学生になったことをきっかけに、新しいことに挑戦してみようと思った。走ることが好きだったので、陸上部に入ることにした。

入部してみると、新入部員の中で陸上未経験者は私だけだった。最初は慣れない練習にとまどうことも多かったが、仲間の優しさと励ましのおかげで、少しずつ慣れていった。

私が最初に陸上部に入部したことを実感した出来事は、体育祭の学級対抗駅伝だ。クラスで駅伝の走者を決めるとき、せっかく陸上部員になったのだから、と思い走者に立候補した。でも正直なところ、入部したばかりで走りきれるか不安だった。コーチもアドバイスをしてくれたが、体育祭当日、私は緊張と不安で押しつぶされそうだった。そんな私に友人が、「頑張ってるね。」と声をかけてくれた。そのとき、急に気持ちが晴れて、やる気が出てきた。

第一走者だった私は、とにかく先輩を追いかけて走った。ゴールが近づくにつれ、だんだん疲れてつらくなってきた。でも、みんなの声援はどんどん大きくなる。私は、その力を全身に感じた。力が湧いてきた。たくさんの応援を感じながら走ることは、今まで経験がなかった。それは、とても気持ちがいいことだった。もう一息、もう一步、と自分に気合を入れ、自分が想像していたよりも大きな差がない状態で、次の走者にたすきをつなぐことができた。自分が走り終わった後、もちろん私も仲間に力いっぱい大きな声援を送った。クラスのみんなどとの一体感が心地よかった。

私たちのクラスは、1年生ながら全校で1位となった。少し前まで不安でいっぱいだった私の心は、喜びと達成感でいっぱいになった。この経験が自分にとって大きな自信となり、ますます走ることが好きになった。毎日の練習も、自分を成長させるための大事な時間だと思えるようになった。

それから数週間後、陸上の市郡大会があり、私は1年の1500メートル走に出場した。生まれて初めての陸上競技大会で、分からないことだらけのままスタート地点に並んだ。恥ずかしながらそのときの私は、トラック1周の距離すら知らなかった。ここを何周するのかな、と思いながら、ただがむしゃらに走った。そんな私のことを、部員みんなが応援してくれた。競技中、トラックのどこを走っていても、みんなの大きな声が聞こえてきた。期待に応えたい、感謝

の気持ちを表したい、負けたくない。その思いで、ゴールに向かってただひたすら全力疾走した。その結果、私は1位になった。自分でも驚いた。自分の限界を超えることができたのは、応援のおかげだと思っている。応援の力は本当にすごい。そう実感した出来事だった。支える側も、支えられる側も、お互いに力になれる。この応援の力を信じて、私も仲間の応援を続けた。応援は一人一人の気持ちをつなぎ、さらに大きな力となる。

陸上を始めて数カ月が経ち、今、少しずつ分かってきたことがある。それは、陸上競技は個人の力が問われる競技だが、仲間の存在がとても大きく大切だ、ということだ。他のスポーツにも同じことが言えるかもしれない。仲間と一緒に目標に向かって努力することで、互いに高め合い、より成長することができる。競技前は仲間と一緒に練習をするし、仲間の競技中は一生懸命応援をする。仲間が目標達成できたときは、自分のことのようにうれしいし、逆の場合も仲間は一緒に喜んでくれる。厳しい練習も、仲間が励ましてくれるから、私は頑張ることができている。喜びもつらさも分かち合える仲間の存在は、とても心強い。また、競技場で会う他校の選手との交流も、刺激を受ける楽しい時間だ。ライバルだけれど、同志でもあり、それぞれの目標に向かって一緒に走る。なんだか新鮮な存在で不思議な感覚だ。陸上競技を通じて、私は新たなつながりや友情を広げることができている。私は陸上部に入ってよかった、と心から思っている。

陸上を通して、仲間と同じ気持ちで応援できるようになったことを、私は幸せに感じている。応援は私の無限のエネルギーだ。これからも、仲間と一緒に成長していけたらいいな、と思っている。